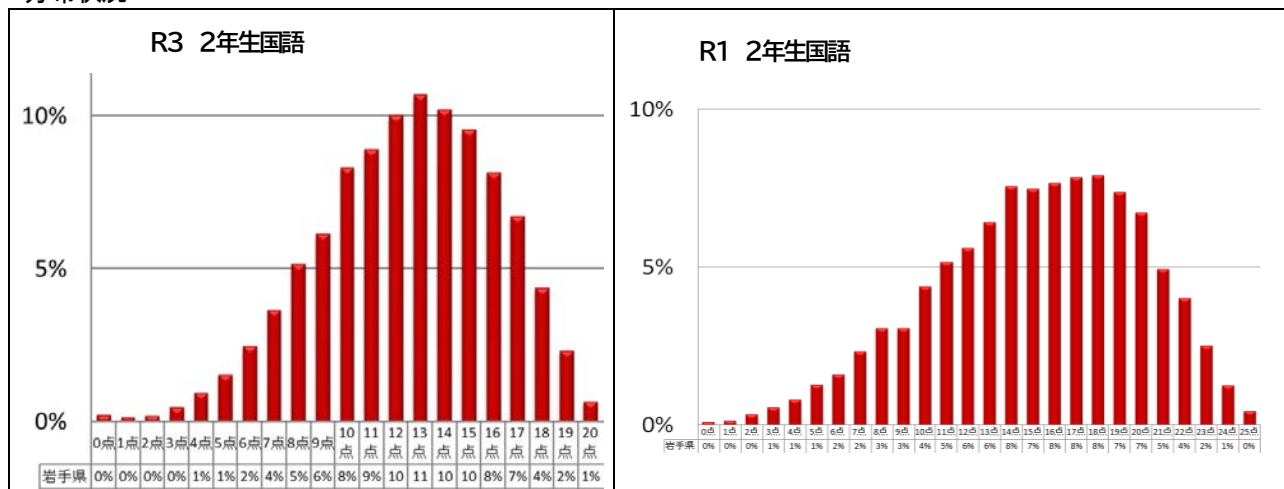


授業改善の手引 中学校第2学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数はR1年度から5問減り20問、正答数の最頻値は13問、平均正答数は12.5問です。R1年度の分布と比較すると、正答数の最頻値より高い生徒割合が増えています。正答数10問以下の生徒の割合は29%であり、この層に属する生徒への指導の工夫が重要です。
(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

観 点 ・ 領 域 等	正答率 ()はR1
知識・技能 (5問)	75.0% (64%)
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと) (5問)	77.8% (62%)
思考・判断・表現 (書くこと) (2問)	54.8% (51%)
思考・判断・表現 (読むこと) (8問)	47.1% (58%)

(3) 結果概要

- ア [知識及び技能] については、5問出題され、正答率は75.0%でした。
○漢字の読み書きを問う問題の正答率は良好でした。
●「文脈に沿って、漢字を適切に使う」について課題が見られます。
- イ [思考力, 判断力, 表現力等] (話すこと・聞くこと) については、5問出題され、正答率は77.8%でした。
○概ね良好でした。
- ウ [思考力, 判断力, 表現力等] (書くこと) については、2問出題され、正答率は54.8%でした。
●「資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」の正答率は43%であり、引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- エ [思考力, 判断力, 表現力等] (読むこと) については、8問出題され、正答率は47.1%でした。
○「登場人物の心情を捉える」は比較的良好でした。
●「登場人物の言動の意味を捉えること」と「文章の構成や展開を捉えること」について課題が見られます。

(4) 経年比較問題の状況 ((○改善、◇改善傾向、●課題が継続、▲はR1県学調との比較イテズを表す))

通番号	正答率	比較	調査のねらい
○ 4(話・聞)	83	2	話し手の工夫を理解して聞く。
● 8(知・技)	66	▲ 8	語句に関する類別の理解を深める。
◇ 12(読)	58	14	表現の効果をとらえて読む。
◇ 16(読)	44	12	文章の展開を確かめながら要旨を捉える。
● 18(読)	31	▲35	文章の構成や展開を捉える。
● 20(書)	47	4	資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。

- 通番号12「表現の効果をとらえて読む」は改善傾向が見られます。
●通番号18「文章の構成や展開を捉える」通番号20「資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」は、年度によって正答率の増減はあるものの、課題が継続しており、指導の工夫が必要です。

(5)小問別正答率

2年 国語	調査問題のねらい	学習指導要 領との関連	関連する Gアップシート	主な 観点	備考	正答率	選 択 No. (%)								
							1	2	3	4	5	6	9	0	出題形式
							選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答		
1	話の要点を捉えて聞く。	第2学年 思判表A(1)エ	第2学年 「話・聞」-2	話聞	活用	79.1	0	0	0	0	19	79	2	記述	
2	話の要点を捉えて聞く。	第2学年 思判表A(1)エ	第2学年 「話・聞」-2	話聞	活用	86.1	0	0	0	0	12	86	2	記述	
3	話の要点を捉えて聞く。	第2学年 思判表A(1)エ	第2学年 「話・聞」-2	話聞		83.4	2	10	83	3	0	0	0	選択	
4	話し手の工夫を理解して聞く。	第2学年 思判表A(1)エ	第2学年 「話・聞」-2	話聞	経年	82.7	83	5	8	3	0	0	0	選択	
5	話の要点を捉えて聞く。	第2学年 思判表A(1)エ	第2学年 「話・聞」-2	話聞	活用	57.6	0	0	0	0	33	58	10	記述	
6	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年 知技(1)エ	言語事項- 42, 43	言葉		63.3	0	0	0	0	26	63	10	記述	
7	漢字「刺激」を正しく読む。	第2学年 知技(1)ウ	言語事項-67 ~100	言葉		97.7	0	0	0	0	1	98	1	記述	
8	語句に関する類別の理解を深める。	第1学年 知技(1)エ	言語事項-1 ~9	言葉	経年	65.5	65	5	1	27	0	0	1	選択	
9	接続する語句の役割について理解を深める。	第1学年 知技(1)エ	言語事項-7, 18, 28	言葉		58.1	0	0	0	0	35	58	7	記述	
10	漢字「届く」を正しく書く。	第5・6学年 知技(1)エ	言語事項-67 ~100	言葉		90.2	0	0	0	0	3	90	6	記述	
11	文章の描写に即して登場人物の心情を捉える。	第1学年 思判表C(1)イ	第2学年 「読」-1~2	読		73.4	13	5	9	73	0	0	1	選択	
12	表現の効果を捉えて読む。	第2学年 思判表C(1)エ	第2学年 「読」-1~2	読	経年	58.2	12	15	58	14	0	0	1	選択	
13	登場人物の言動の意味を捉える。	第2学年 思判表C(1)イ	第2学年 「読」-1~2	読	活用	22.6	0	0	0	0	50	23	28	記述	
14	登場人物の言動の意味を捉える。	第2学年 思判表C(1)イ	第2学年 「読」-1~2	読	活用	47.2	13	47	27	10	0	0	2	選択	
15	文章の展開に即して内容を捉える。	第2学年 思判表C(1)イ	第2学年 「読」-5~7	読		52.5	52	21	17	8	0	0	1	選択	
16	文章の展開を確かめながら要旨を捉える。	第2学年 思判表C(1)イ	第2学年 「読」-5~7	読	経年 活用	44.1	0	0	0	0	33	44	23	記述	
17	文章の展開に即して内容を捉える。	第2学年 思判表C(1)イ	第2学年 「読」-5~7	読		48.1	12	48	13	25	0	0	2	選択	
18	文章の構成や展開を捉える。	第2学年 思判表C(1)エ	第2学年 「読」-5~7	読	経年	30.8	31	15	21	31	0	0	2	選択	
19	伝えたい事柄を明確にして適切な構成を工夫する。	第2学年 思判表B(1)イ	第2学年 「書」-3~4	書	活用	62.4	0	0	0	0	21	62	16	記述	
20	資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。	第2学年 思判表B(1)ア・ ウ	第2学年 「書」-3~4	書	経年 活用	47.3	0	0	0	0	36	47	17	記述	

2 指導のポイント

(1) 文脈に沿って、漢字を適切に使うことが求められる学習活動を工夫しましょう。

ア 問題の概要

② (1) 文脈に沿って、漢字を適切に使うことができる。

第5・6学年 [知識及び技能] (1) エ 正答率 63.3%

イ 誤答分析

無解答率は10%でした。誤答を分析すると、漢字の間違いとして「快」を指摘することができても、正答の「改」ではなく「解」と書き直す誤答が多く見られました。また、漢字の間違いとして「務」を指摘し「勤」や「努」と書き直す誤答が見られました。

この問題では、漢字のもつ意味を考えて、文章の中で正しく使われているか識別する力が求められています。そのため、前後の文脈から意味内容を捉え、正しく伝達できる同音意義の漢字を書くことや、これまでに学習した漢字(熟語)の習熟に課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 小5-③(3)】

(ア) 漢字単独の読み書きだけではなく、文脈の中での意味と結び付けて漢字を適切に使うことについては、小学校第1学年及び第2学年の段階から継続して学習しています。これを受け、話や文章の中で、類義語や対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などを使うことを通して、語句の量を増やすとともに、語句についての理解を深める必要があります。

(イ) 指導に当たっては、漢字のもつ意味を考えて使う習慣を身に付け、文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが必要です。日常的に相手や目的に応じて、適切に漢字が用いられているかどうかを確認することができるように指導することも考えられます。他教科等の学習や日常生活の中でも、積極的に辞書を用いて語句の適切な使い方を調べられるよう、言語環境を整えるなどの工夫が考えられます。

(2) 接続する語句の役割を考えながら文章を作成する言語活動を充実させましょう。

ア 問題の概要

② (4) 接続する語句の役割について理解を深めることができる。

第1学年 [知識及び技能] (1) エ 正答率 58.1%

イ 誤答分析

無解答率は7%でした。誤答を分析すると、二つの文章に分けて書き直す際に、接続する語句を「イベントの内容を」の前に位置付けている解答が多く見られました。また、一文目の文末表現を、「としている。」や「としているので。」のように、敬体にしていない記述も多く見られました。

この問題では、接続する語句の役割について理解し、適切に使うことが求められています。そのため、接続する語句である「そこで」の役割を捉えた上で、文相互の関係を捉えて文章の区切りを適切に判断することと、文章の意味が分かりやすく伝わるか見直すことに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 小5-⑤(3)】

(ア) 接続する語句の役割について理解することについては、小学校第3学年及び第4学年(「知識及び技能」の指導事項力)で学習しています。これを受け、接続する語句が、話や文章の中でどのような役割を果たしているのかを考えたり、働きを分類したりする必要があります。併せて、書き換えた文章について確かめさせたり、振り返らせたりする必要があります。

(イ) 指導に当たっては、[思考力、判断力、表現力等]の「A話すこと・聞くこと」の「構成の検討」、「B書くこと」の「構成の検討」や「推敲」、「C読むこと」の「構造と内容の把握」と関連を図り、接続する語句が話や文章の中でどのような役割を果たしているのかを常に考える機会を計画的に設定することが必要です。また、二文に分ける学習機会を意図的に組み入れ、接続する語句の前後の文章の意味を考えながらどこで区切れればよいか考えたり、書き換えた文章を再度読み直したりしながら、意味が通る文章になっているか、文末表現が文体に揃っているか等、推敲するなどの工夫が考えられます。

(3) 登場人物の言動の意味などについて考え、内容の解釈に役立てる学習活動を充実させましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

3	(3) A、B 登場人物の言動の意味を捉える。 第2学年 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C読むこと」(1) イ	A 正答率 22. 6% B 正答率 47. 2%
---	---	------------------------------

イ 誤答分析

Aの無解答率は27.7%で、今回の調査問題の中では最も無解答率の高い問題でした。「ノイズがない」という叙述と主人公の人物像を関連付けることができなかつたことが原因だと推察されます。誤答を分析すると、「ノイズがない」という「基」の人物像を、「ノイズがある状況」と勘違いして記入した解答が多く見られました。また、「基」の言動の意味を読み誤り、一般的で理想的な「部長像」を記入した解答が多く見られました。

Bの誤答を分析すると、「背中で周りを引っ張る」と考えた理由について、「基」の人物像を踏まえずに、一般的に理想だと思われるリーダー像を選択する解答が多く見られました。

この問題では、登場人物の言動の意味を考え、内容を解釈する力が求められています。そのため、登場人物の言動から、登場人物の設定の仕方を捉えることに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 小5-4】

(ア) 登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読むことについては、中学校第1学年(「C読むこと」の指導事項イ)で学習しています。これを受け、中学校第2学年では、「登場人物の言動の意味」について登場人物の人物像や相互関係を踏まえた上で、その言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのように関わっているかを考える必要があります。

(イ) 指導に当たっては、登場人物の言葉や行動が、話の展開にどのように関わっているのかを考えながら、内容を解釈することが大切です。例えば、登場人物の言動の意味を考えるとところから、人物像を想像し、お互いに考えを交流する言語活動が考えられます。

【展開例 参照】

(4) 文章全体を俯瞰して、文章の構成や論理の展開を分析し、その意図を考える学習活動を行いましょう。

ア 問題の概要 【経年比較問題】

4	(4) 文章の構成や展開を捉える。 第2学年 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C読むこと」(1) エ	正答率 30.8%
---	---	-----------

イ 誤答分析

無解答率は2%でした。誤答を分析すると、誤答である選択肢1を選んだ割合が31%、選択肢2は15%、選択肢3は21%と、文章構成の判断に戸惑った誤答が多く見られました。これは、本文の各段落の内容と段落の役割の関係を捉えることができなかつたことが原因と考えられます。

この問題では、文章全体を俯瞰して、文章の構成や論理の展開を捉える力が求められます。そのため、文章の全体を大きく捉えず、「問題・課題」や「具体例」、「筆者の考え」、「問題提起」などといった段落の内容と段落の役割を照らし合わせて捉えることができないことに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 小5-5(1)】

(ア) 文章の構成や展開については、文章の組立てや作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、なぜそのような構成や展開になっているのか自分なりに意味付けをすることを第1学年(「C読むこと」の指導事項エ)で学習しています。これを受け、文章全体や部分における構成や論理の展開を把握した上で、なぜそのような構成にしたのか自分なりの考えをもつことができるようにする必要があります。

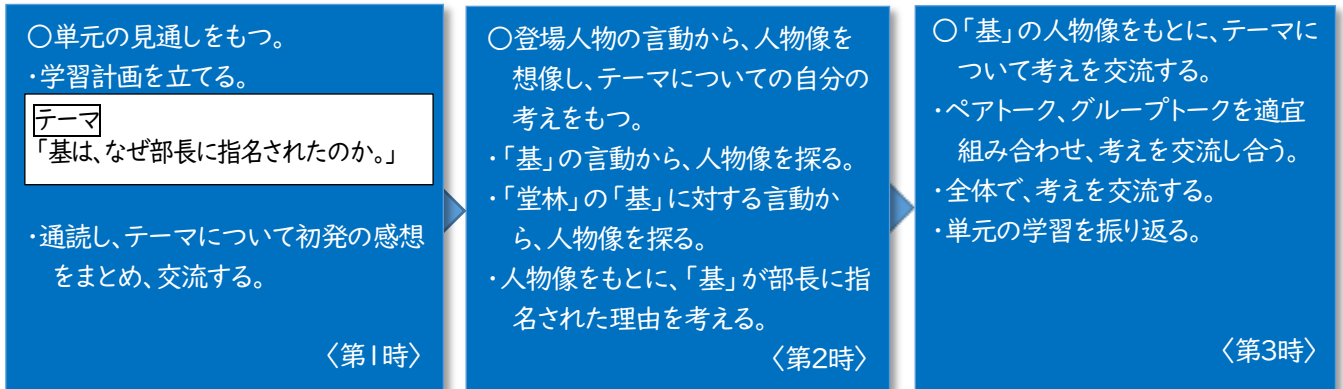
(イ) 指導に当たっては、文章の組み立てを形式的な理解だけに留めず、「問題や課題を述べている段落」「具体例を示している段落」「筆者の考えが示された段落」「まとめる段落」等、内容によって捉えることが大切です。また、論理の展開に関わる筆者の意図や思考の流れをもとに、その効果について自分なりの考えをもたせることが大切です。さらに、一つの文章を読むだけでなく、複数の文章を比較しながら、「何が書かれているか」といった構成と「どのように書かれているか」といった論理の展開を比較し、内容をまとめ、交流するような指導の工夫が考えられます。

【登場人物の言動から、人物像を想像し、お互いに考えを交流する言語活動を位置付けた展開例】

教材（額賀 滯 「風に恋う」）

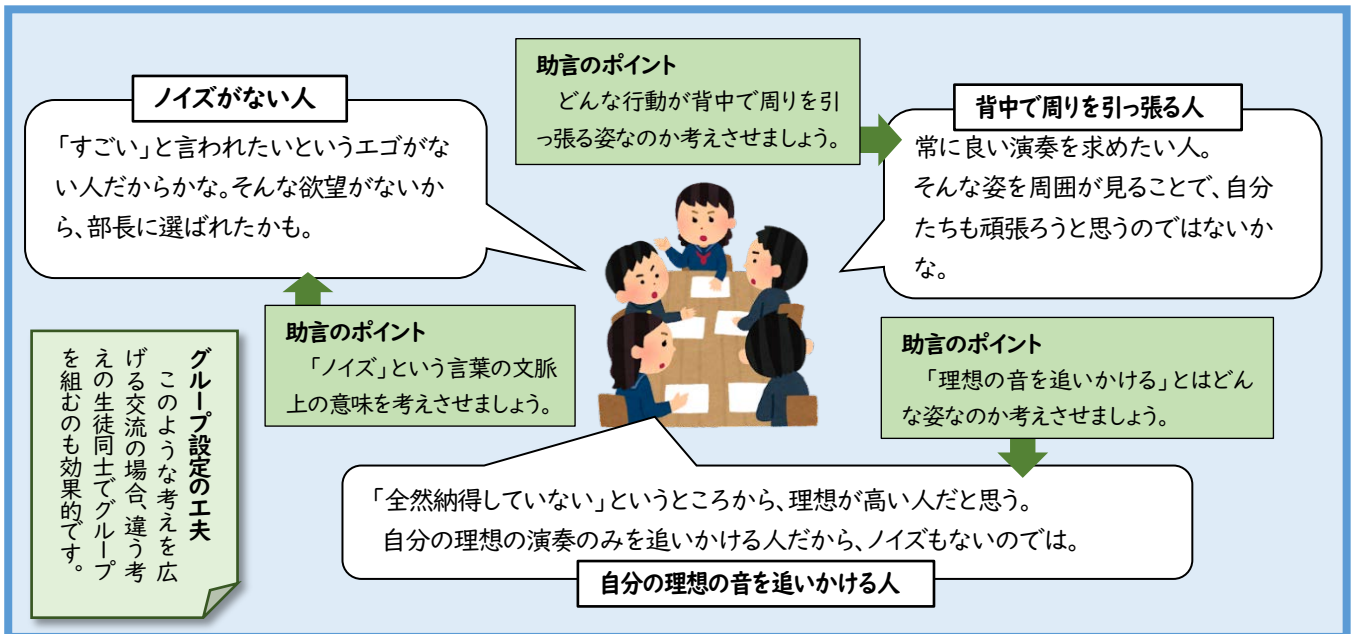
（令和3年度岩手県中学校学習定着度状況調査 中学校第2学年国語³）

《単元指導計画》



《第3時「基」の人物像をもとに、テーマについて考えを交流する》

登場人物の言動から想像した人物像をもとに、テーマについての自分の考えを交流し合う。



交流を深めるための教師の発問例

- 瑛太郎先生は、「基」に部長としてどんなことを期待していたのだろう。
- 瑛太郎先生は、「基」を部長にすることで、部にどんな変化が起こることを期待したのだろう。
- 瑛太郎先生は、「基」と他の部員とで、どこに違いを感じているのだろう。

交流を深めさせるためのポイント

交流を深めるために、生徒の考えを出し合わせるだけでなく、教師の適切な支援が必要です。生徒が、複数の叙述を結び付けて言動の意味を考え、物語の全体像を捉えていくために、例えば、交流の場面で左のような発問をするなどの工夫が考えられます。

〔生徒の「振り返り」の記述の例〕

「基」が部長に指名された理由について、最初は「ノイズがない」からだと考えていた。グループでの交流の時、「ノイズ」の意味について話題になった。最初自分は、「ノイズ」という言葉だけで考えていた。ノイズの意味が分かったことで、「基」がどんな人なのかははっきりした。グループでの交流を通じて、友達の考えに納得することがたくさんあった。物語の感想を交流することで、読みの深まりを実感できた。